

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 6 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 6 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,974 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲4.6%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,681 円（伸び率▲4.1%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,561 億円（伸び率▲0.2%）、薬剤料が 4,402 億円（伸び率▲6.1%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 796 億円（伸び率+3.9%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,185 円（伸び率▲6.4%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.75 種類（伸び率▲0.2%）、24.2 日（伸び率+2.5%）、78 円（伸び率▲8.5%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,568 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲266 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 684 億円（伸び幅▲155 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+6 億円（総額 271 億円）であった。（→P.13）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,568 億円 (▲266 億円)	21 循環器官用薬 (684 億円)	11 中枢神経系用薬 (653 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (560 億円)
0 歳以上 5 歳未満	26.8 億円 (▲6.1 億円)	44 アレルギー用薬 (10.9 億円)	61 抗生物質製剤 (5.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	71.5 億円 (▲6.0 億円)	44 アレルギー用薬 (24.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (20.3 億円)	61 抗生物質製剤 (7.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,247 億円 (▲79 億円)	11 中枢神経系用薬 (282 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (209 億円)	21 循環器官用薬 (207 億円)
65 歳以上 75 歳未満	869 億円 (▲89 億円)	21 循環器官用薬 (198 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (165 億円)	11 中枢神経系用薬 (109 億円)
75 歳以上	1,354 億円 (▲86 億円)	21 循環器官用薬 (276 億円)	11 中枢神経系用薬 (240 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (181 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,681 円（伸び率▲4.1%）で、最も高かったのは京都府（10,259 円（伸び率▲4.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,501 円（伸び率▲4.0%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲2.5%）、最も低かったのは福島県（伸び率▲6.7%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	74.5%	+5.3%
薬剤料ベース	18.1%	+1.7%
後発品調剤率	71.3%	+4.0%
（参考）数量ベース（旧指標）	51.4%	+5.4%

注）【後発医薬品の数量】 / （【後発医薬品のある先発医薬品の数量】 + 【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.9%	+13.5% (5 歳以上 10 歳未満)	▲2.4% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.1%	20.6% (0 歳以上 5 歳未満)	11.4% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	74.5%	77.7% (60 歳以上 65 歳未満)	66.5% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	703 億円 (+26 億円)	21 循環器官用薬 (229 億円)	23 消化器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (76 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.8 億円 (+0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (2.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	12.6 億円 (+1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (6.9 億円)	61 抗生物質製剤 (2.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	237 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)	23 消化器官用薬 (30 億円)
65 歳以上 75 歳未満	177 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (73 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (19 億円)
75 歳以上	270 億円 (+6 億円)	21 循環器官用薬 (90 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)	11 中枢神経系用薬 (30 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,157 円	1,512 円（岩手県）	976 円（福岡県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.4%	+10.4%（徳島県）	+0.8%（鹿児島県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	74.5%	85.0%（沖縄県）	66.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.1%	21.8%（鹿児島県）	15.5%（徳島県）
後発医薬品調剤率	71.3%	80.4%（沖縄県）	66.0%（東京県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	51.4%	61.4%（沖縄県）	46.6%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成30年6月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。